

紀 要

第10号

— 目 次 —

序

縄文時代石器研究の方法論序説	(鈴木 康 二)
弥生社会からみた独鈷石	(田 井 中 洋 介)
犬上川左岸扇状地における考古学的研究	(近江歴史クラブ)
犬上川左岸扇状地における須恵器編年試案	(畑 中 英 二)
犬上川左岸扇状地の古墳群について	(北 原 治)
近江における階段式石室の検討	(堀 真 人)
犬上川左岸扇状地における無袖式横穴式石室	(辻 川 哲 朗)
古墳時代後期から終末期にかけての土壙墓の問題点	(畑 中 英 二)
犬上川左岸扇状地の古墳にみられる習俗の研究	(畑 中 英 二)
犬上川左岸扇状地における馬具副葬土壙墓について	(山 中 由 紀 子)
犬上川左岸扇状地における古墳出土の土器様相について	(中 村 智 孝)
犬上川左岸扇状地周辺の生産と流通の概観	(畑 中 英 二)
東大寺水沼荘の開発	(神 保 忠 宏・畑 中 英 二)
「湖東系軒丸瓦」に関する基礎的考察	(重 岡 卓)
古代王権論にむけて	(細 川 修 平)
日野町出土の瓦器碗をめぐって	(土 垣 幸 徳)
滋賀県伊香郡高月町井口集落周辺の水利と環境	
井口城とその立地	(神 保 忠 宏)
水と環境教育	(佐 野 静 代)

1997. 3

(財)滋賀県文化財保護協会

犬上川左岸扇状地における考古学的研究

—古墳時代から古代前期にかけての地域社会へのアプローチ—

近江歴史クラブ

話は突然だが、私も、はやりのインターネットなるもの体験してみた。当然のこととしてオネーサンに出会った。久しぶりに胸のときめきを感じつつも、なぜか考古学の将来について考えてみた。世界中のコンピューターからオネーサンに会えるように、考古学の情報もコンピューター処理され、その情報は世界中の人々が出会うべき存在となるだろう。もちろんその情報は、オネーサンがより露な姿になってくれるように、単に集積としての情報ではなく、分類・類型化と言った考古学的基礎作業を経た、資料としての情報である。言わば、今回私たちが行った基礎作業の大部分はマウスのクリック一つで行えるようになる日も近いのである。

こうした時代の考古学は、集成や編年、分類、形式設定など基礎的な部分での共通認識が加速度的に進行することは疑いない。今まで基礎作業に苦しんでいた考古学は、その労苦から開放されるのである。当然、応用作業は進行し、考古学は大いに発展する。

しかし、これではインターネットの面白さは全く活用されていない。インターネットの面白さは、世界中無条件の情報相互交換機能に存在する。オネーサンの画面のメモ帳に「今晚お暇？」と書き込んでおけば、オネーサンからの返事がもらえ、現実のオネーサンとのデートも夢ではない。もちろん一文無

しになる危険性も同居している。

考古学のホームページにおいても同様のことが進行する。資料・情報にアクセスした人が、そこからの着想や新たな分析方法を書き込んでおけば、忽ち世界中から批判・激励・反論・弁護・賛成・反対が集まってくる。一つの着想が、瞬時の無数の議論を経て、大きな理論に成長することも夢でない。まさに「毎日がシンポジウム」。自由な参加による自由な議論。これこそがインターネットがもたらす学問の進歩であり、そこからの生まれ出るであろう「考古学の理論」に大きな夢を見るのは私だけだろうか。もちろん、そうした考古学の中では豊かな着想と確実な理論がなければ、生活の糧をつぎ込む一方になる危険性も同居している。

私たちの研究会もこうした存在でありたいと思っている。自由な参加と自由な議論、そこから生まれる大きな成果。研究会と言うインターネットが共有する大きな財産となるはずである。今回の研究がその域に達したかはともかく、今回の作品の中から、私たちのそうした気持ちを読み取っていただければ幸いである。多分、生活が奪われる危険は無いはずである。皆様方からのより活発なアクセスをお待ちしています。

パスワードは「konban/ohima?」



第1図 犬上川左岸扇状地の古墳群・関連遺跡分布図

- | | | | |
|----------------|-------------|----------------|----------|
| 1 檜崎古墳群 | 2 金屋南・外輪古墳群 | 3 北落古墳群 | 4 塚原古墳群 |
| 5 堀之内古墳群 | 6 寺道古墳群 | 7 三博・四ツ塚古墳群 | 8 横枕古墳群 |
| 9 尼子古墳群 | 10 栗林古墳群 | 11 小川原古墳群 | 12 葛箆北遺跡 |
| 13 小川原遺跡 T1 土壙 | 14 長畑遺跡 | 15 在土北遺跡(土壙墓群) | 16 金屋古墳 |
| 17 西ヶ丘古墳群 | 18 九條野古墳群 | 19 南川瀬遺跡 | 20 葛箆南遺跡 |
| 21 尼子南遺跡 | 22 下之郷西遺跡 | 23 下之郷古墳群 | 24 下之郷遺跡 |
| 25 法養寺遺跡 | 26 長寺遺跡 | 27 雨降野遺跡 | |

編 集 後 記

『紀要』の第10号をお届けいたします。

本号には多数の寄稿をいただいたため、紙幅の関係上、体裁を若干変えざるをえなくなりました。見にくい点等があらうかと思いますが、どうか御了承下さい。

さて、本号をもって、この『紀要』も10歳を迎える事になりました。ここに至る間には、多くの方々の御指導・御協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。今後とも職員の研究活動の拠点として、さらに研鑽をつんでいきたいと考えておりますので、皆様からの積極的な御叱正・御鞭撻を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

(T・M、T・T)

平成9年3月

紀 要 第10号

編集・発行：財団法人滋賀県文化財保護協会
滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2
TEL:(0775-48-9780)
印刷・製本：明文舎印刷商事株式会社
滋賀県長浜市森町中久保386